

3 南区における今年度の取組

令和2年4月に策定した南区地域包括ケアシステム推進方針・アクションプランの遂行が、新型コロナウイルス感染症の影響により当初の計画どおりに行えていないが、令和5年5月8日から感染法上の位置づけが5類感染症へ移行したことを受けて、推進方針の取組1「介護予防」及び取組2「医療介護連携」等について、これまで以上の活動を実施する。

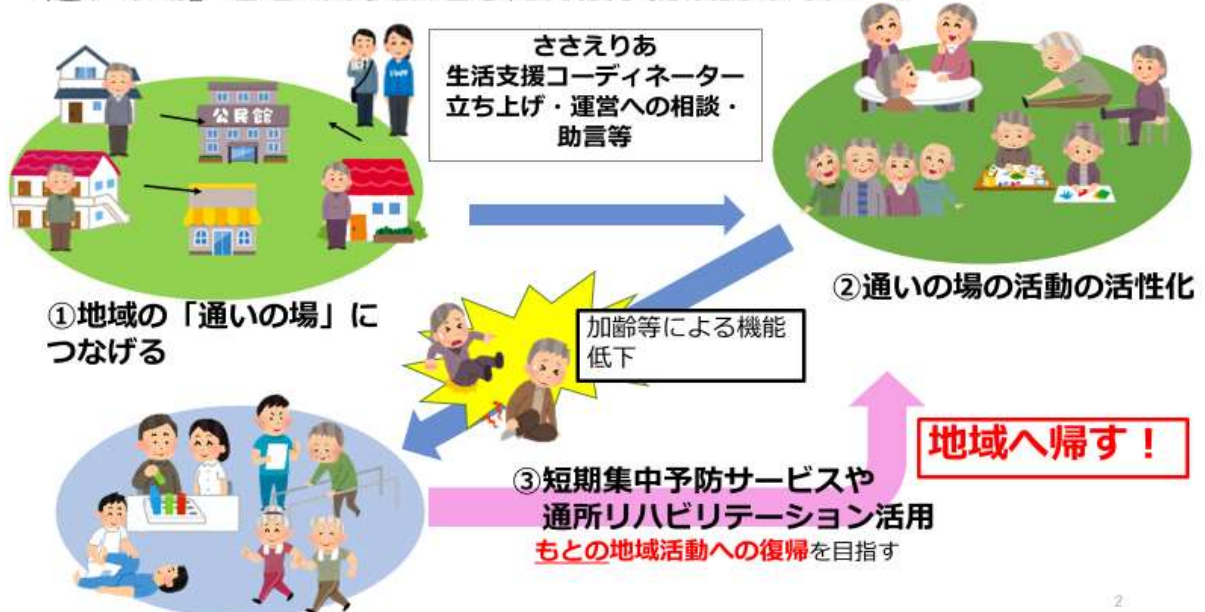
取組方針1 高齢者がいつまでも元気で自らの力を発揮できるまちづくり

(1) 介護予防事業の取組

推進方針の取組方針1の目標、「住み慣れた地域で、近隣や仲間と一緒に主体的に健康づくりに取り組む機会の充実」、「地域の支え合いの中で、健康づくり・介護予防の取組を推進」の達成に向けて取り組んでいる。

今年度も、ささえりあや熊本地域リハビリテーション広域支援センター等の関係機関と連携しながら、積極的に支援していく。

「通いの場」を地域の拠点とした介護予防活動のイメージ



- 老人クラブ
- 高齢者サロン
- くまもと元気クラブ
- 地域支え合い型通所サービス（通所型サービス B） など

○ 介護予防分野における実務者会議

令和 2 年度及び 3 年度にオンライン会議として開催した介護予防分野における実務者会議は、引き続き実施に向けて検討中。（熊本地域リハビリテーション広域支援センター連絡会と合同での開催を想定）

取組方針 2

□ 医療と介護が充実し、在宅（地域）で生活する市民が安心して暮らせるまちづくり

（２）医療介護連携分野に関する普及・啓発

推進方針の取組方針 2 の目標、「多職種（医療・介護・行政）が現状・課題の共有や解決に向けた連携」の達成に向けて取り組んでいる。

R2 年 9 月から開催の医療介護連携分野（取組 2）における民間の関係機関（多職種）参加による第 2.5 層実務者会議の充実を図りながら普及・啓発に取り組む。

○ 医療介護連携分野における実務者会議（みなまる会議）

【構成団体等】

・急性期病院、回復期病院、在宅医療クリニック、訪問看護ステーション、介護施設、
居宅介護支援事業所、薬局、終末期緩和ケア等各関係者、行政

・各地域包括支援センター職員（令和 5 年 7 月 1 日 現在）

組織分類	所属機関	人数
急性期病院	済生会熊本病院	1名
回復期病院	にしくまもと病院	2名
	あきた病院	2名
	桜十字病院	1名
	平成とうや病院	1名
在宅医療	ひまわり在宅クリニック	1名
老人保健施設	介護保健施設 田迎ケアセンター	1名
在宅医療サポート	MSらぼ	1名
薬 剤	南熊本調剤薬局	1名
訪問看護	訪問看護ステーションいきいきらいふ	1名
熊本地域リハビリテーション広域支援センター	にしくまもと病院	1名
ケアマネージャー	居宅介護支援事業所 青い鳥	1名
地域包括支援センター	南圏域 地域包括支援センター	7名
行 政	医療政策課	1名
計		22名

▶ 今年度（令和 5 年度）は、新たな職種（メンバー）を加えながら、さらに充実を図る。

令和5年度医療介護連携分野実務者会議（みなまる会議）の様子



A photograph showing three male students in a classroom, wearing face masks and working on projects at a long table. They are looking at papers and materials. A whiteboard is visible in the background.



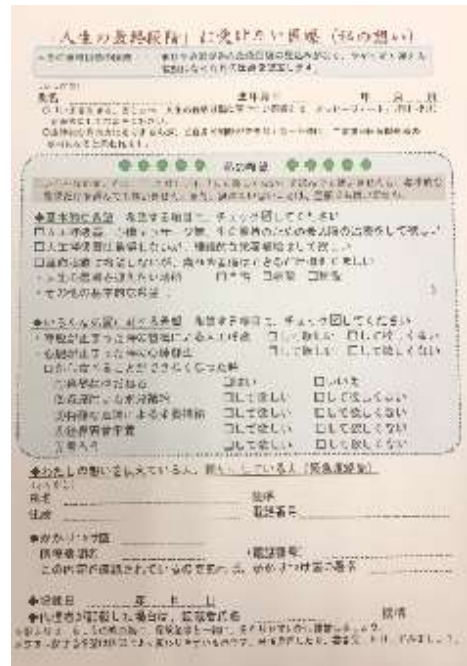
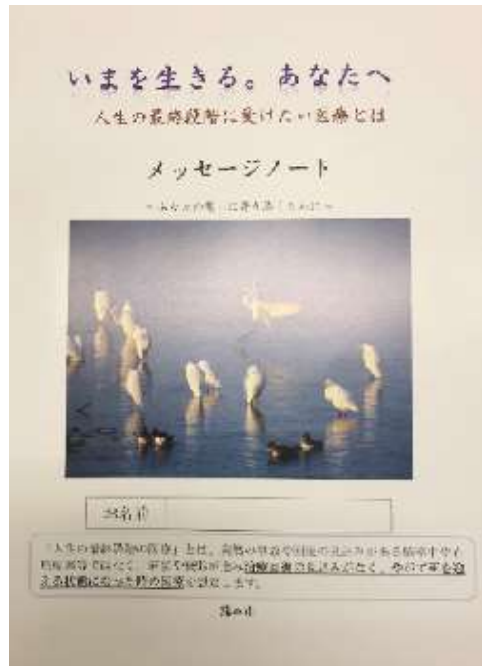
13

(コロナ禍だからこそ大切さ)

イ. ご自身の治療の希望や最後の迎え方に対する想いを家族と話し合ってもらおう

ウ. 自分の意志を書き残してもらおう

(熊本市で作成している「メッセージノート」の紹介)



<令和4年度>

(ニーズ調査チーム)

区内の医療介護従事者が、人生会議・終末期医療や看取り等に対して、どのような意向を持っているのか（どのように思い、どのように動いているのか）を把握するため、アンケートを実施することとした。(R5.2月実施)

(支援者人材育成チーム)

在宅を看取るネットワークづくりとして、南区内の多職種の方を対象に情報を共有するための研修会を開催することとした。(R4.10月21日開催)

(人生会議チーム)

南区独自の取組として、他都市を参考に携帯できる『私の想い』手帳^{※1}の暫定版を作成し、試行運用(R5.2月以降)

※1：メッセージノート別紙を基に、携帯できるサイズで作成するもの。

① 地域住民等に対する人生会議セミナーの実施

南区内には、6つの地域包括支援センターがあり、毎年2つの包括支援センターを単位とした重点地区と位置づけ、「人生会議セミナー」を実施している。

令和3年度は、飽田・天明地域をモデル地域と位置づけし実施した「人生会議セミナー」を、昨年度は、幸田・熊本南地域をモデル地域と位置づけ、令和5年3月末までに14カ所において地域住民に対する同セミナーを開催し、合計396名の区民の方にご参加いただいた。

なお、今年度は、**富合・城南地域をモデル地域と位置づけし開催**している。

自身の「人生の最期の迎え方」や「最期の場面での治療の希望」等について、家族と話し合ってもらうことを推奨。市が作成した「メッセージノート」や医療介護分野における実務者会議メンバーで作成した、**南区独自の携帯できる『私の思い』手帳**も紹介。

※別添資料『令和4年度「人生会議セミナー/第2回南区人生会議の日」アンケート
集計結果【全体版】』を参照

② 南区人生会議の日 ～あなたの思いをつなげるために はじめの一步～ の開催

南区では、厚生労働省が毎年11月30日を「人生会議の日」としていることにちなみ、令和3年度から「南区人生会議の日」のイベントを開催し、アンケート回答者の多くの方から、自身の「人生最期の迎え方について考える機会となった」との回答を得た。

本年度も同様に、令和5年11月25日（土）に火の君文化ホールにおいて、区民（区内に勤務する方を含む）を対象に、「人生会議とは?」、「家族と話し合うことの大切さ」等を知っていただくとともに、熊本市が作成している「メッセージノート」も紹介しながら、実務者会議メンバーで作成した携帯できる「『私の思い』手帳」への記入も体験してもらう、**「第3回南区人生会議の日～あなたの思いをつなげるために はじめの一步～」を開催予定。**

【参考】

□「第1回南区人生会議の日～あなたの思いをつなげるために はじめの一步～」 【再掲】

- ・開催日時 令和3年11月28日（日）
- ・開催場所 天明ホール
- ・参加者 171名（うち、アンケート回答者 124名）

□「第2回南区人生会議の日～あなたの思いをつなげるために はじめの一步～」 【再掲】

- ・開催日時 令和4年11月12日（土）
- ・開催場所 アスパル富合ホール
- ・参加者 223名（うち、アンケート回答者 188名）

(3) 認知症に関する正しい知識の普及

推進方針の取組3の目標、「認知症に気づき、考え、行動できる地域の推進」、「認知症の重症化を予防するために、早期健診・早期対応に向けた支援の推進」の達成に向けて取り組んでいる。

① 認知症サポーター養成講座の実施

認知症サポーター養成講座は、新型コロナウイルス感染症の影響により開催中止となり、令和2年度以降は減少したが、5類感染症に移行したことを受けて、今後、地域活動が活発になると思われることから、増加が予想される。

<R5年4月～6月の実績>

- ・実施回数： 8回 ・参加者： 130名
- ・主な参加者： 御幸小学校4年生・教員、九州中央リハビリテーション学院看護学生、
いこいくらぶ、樹楽団らん白石（地域住民）、株式会社ハンス熊本

認知症サポーター養成講座の実施状況【再掲】

年 度	実施回数	参加者数
R2年度	29回	597名
R3年度	40回	785名
R4年度	37回	1,291名
合 計	106回	2,673名

② 「チームオレンジ」の設置、活動に向けた取組

国は、認知症施策推進大綱において、認知症の人が安心して暮らし続けられる地域づくりを進める観点から、令和7年（2025年）までに、全市町村で「チームオレンジ」を整備するという目標を掲げた。これを受けて南区では、2025年までの設置に向けて、チームの構成メンバーの選定や立ち上げ支援を行っていく。

※「チームオレンジ」とは・・・認知症と思われる初期の段階から、心理面・生活面の支援として、コー
ーディネーターを配置し、認知症の人の悩みや家族の身近な生活支援ニーズ等と認知症サポーターを中心とした支援者をつなぐ仕組み。

取組方針 4 □ 高齢者が自らに合った暮らし方を選択できるまちづくり（高齢者の住まい関連）

（４）公共交通機関空白地域の高齢者（運転免許返納後等）の移動手段の確保

推進方針の取組４の目標、「高齢者が自ら意欲を持ち、外出ができる」の達成に向けて取り組んでいる。

公共交通機関の不便な地域に住んでいる高齢者の移動手段として、乗合タクシー等の利用を関係機関とともに推進する。高齢者が住み慣れた場所で受診や買物に行けるだけでなく、趣味やサロン等その人がいきいきとできる場に行けるように支援していく。

○ 乗合タクシー（デマンドタクシー）の運行